

# 漫画の擬音語・擬態語

## 日本語と英語

ステファニー・ブルームフィールド

### はじめに:

英語は擬音語・擬態語を使っているが、頻度が日本語と比べると、日本語の方がよく使われている。擬音語・擬態語の数も多いし、使用頻度も高い。日本人の子供たちは、小さい時にこの単語に接触し、すぐ自分で使い始める。それで、普通の日本人は擬音語・擬態語をよく使う。特に、日本語の漫画の中には擬音語・擬態語の単語が多く使われている。その部分は漫画だけに使われるものも多く、辞書には、全部は載っていない。他の出版物と比べたら、漫画ほど擬音語・擬態語が使われるものはない。もちろん、日本の漫画の種類は本当に多い。どこへ行っても漫画が売られている。男性、女性、子供の漫画もある。人気がある漫画は映画になる。漫画の世界は広い。それで、日本語の擬音語・擬態語を勉強するには、漫画の世界の中で勉強するのが良いだろう。

この研究をするために、日本の漫画の「What's Michael?」(小林まこと著)と「サザエさん」(長谷川町子著)を使って、日本の擬音語・擬態語を英語の訳と比べた。「What's Michael?」には、猫のマイケルの生活とマイケルの飼い主の生活が述べられている。猫の物語だから、擬音語・擬態語が多いのである。著者は、こういった擬音語・擬態語を使って、読者に猫の気持ちを伝えている。一方、「サザエさん」は普通の日本人の生活についての漫画である。多分、「What's Michael?」も「サザエさん」も多くの日本人に知られている。

擬音語・擬態語: 擬音語は簡単に言うと、人間と動物の声と運動の音をまねる言葉である。例えば、「クックッ」という笑い、犬の鳴き声の「ワンワン」などは擬音語という言葉である。擬態語は音を言い表さなくて、生物、無生物の状態と様子を表現する。「すらすら」と言う単語は、音を表現しなくて、動作や物事が滞りなく運ぶのを表現している言葉である。

### 1. 集め方:

最初に、「What's Michael?」に出てくる日本語の擬音語・擬態語とそれに相当する英語を集めた。後で、「日英擬音・擬態語活用辞典」と「小学館プログレッシブ和英中辞典」で単語の意味を調べて、それぞれの語を擬音語か擬態語に分類し表1に示した。日本語の擬音語に出てくる子音類(表2)と母音類(表3)の音素表を作った。例えば、語「か」は表の中で /k/ と /a/ の位置にそれぞれその出現回数を記入した。擬態語も同様にした。基本的には、1モーラと2モーラのグループに分け、同音反復の語別のグループも入れた。更に、

グループの中で音の種類により細分化した(表4)。英語の場合は、日本語と同じように、擬音語・擬態語のグループに語を分けた。その後、英語の単語の語頭の文字により分類した(表5)。そして、子音連結については言葉の語頭(表6)と末尾(表7)の音のグループにも分けた。例えば、「sproing」という言葉は、「sp」のグループと「ng」のグループにした。英語には、モーラがないから、音節により分類したが、日本語の場合はモーラにより分類した(表8)。

## 2. 分析

表1から「What's Michael?」と「サザエさん」には擬音語の方が、擬態語より多いことが分かる。日本語でも、英語でも多い。日本語の数と英語の数は違う。そして、時々日本語の語に対する英語の語がなかった。

表2から擬音語の子音の／g／、／b／が特に多いことが分かる。一番頻繁な子音は／g／であったが、／b／も多かった。／j／、／t／、／ts／、／h／、／n／はあまり使用されていなかった。／y／と／r／はまったく使用されていなかった。擬態語の場合は、擬音語のように、／g／が一番多かったが、／p／と／s／も頻繁であった。／sh／、／j／、／d／、／n／、／h／、／y／、／z／の頻度は少なかった。そして、／t／、／ts／、／m／、／r／、／w／、は使用されていなかった。

表3から擬音語・擬態語の母音は／a／、／i／、／u／、の頻度が高いことが分かる。／e／というのは、母音はあまり使用されていなかった。擬音語には、／a／が一番多くて、／u／は二番目に多かった。擬態語の場合は、／u／と／o／(9回ずつ)が一番、／a／は二番目に多かった。

表4から擬音語の2モーラのグループは使用頻度が高く、1モーラのグループの頻度も高いことが分かる。擬態語については、1モーラのグループが一番高い。しかし、全体に2モーラのグループが一番多くて、1モーラのグループは二番目、反復は三番目多かった。語の末尾の語を見たら、1モーラと2モーラのグループには、「ッ」の音が特に多い。しかし、反復のグループには、「ッ」の語がなかった。その上に、「ン」の頻度は一番多いと言えないが、よく使われていることである。

表5から英語の語頭の文字には、[i]、[l]、[q]、[u]、[x]、[y]の擬音語・擬態語はないことが分かる。擬音語の場合は、「s」がはるかに多かった。それから、「b」、「c」、「p」、「t」は、だいたい同じ頻度で、二番目に多かった。擬態語は少し違った。「s」と「w」は、3回で、一番多かった。

表1:擬音語・擬態語の頻度

	[What's Michael]		「サザエさん」	
	日本語	英語	日本語	英語
擬音語の頻度	55	72	28	32
擬態語の頻度	26	11	3	2

表2:擬音語・擬態語の子音

	k	g	s	sh	j	z	t	ch	d	ts	n	h	b	p	m	y	r	w
WM 音	3	12	3	2		2	1	4	4	1	1	1	14	4	2			1
サ音	4	7	1	1	1			4	1			1	1	3				1
合計	7	19	4	3	1	2	1	8	5	1	1	2	15	7	2			2
WM 態	2	5	4	1	1	1		2	1		1	1	2	4		1		
サ態		1												1				
合計	2	6	4	1	1	1		2	1		1	1	2	5		1		

WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

表3:擬音語・擬態語の母音

	a	i	u	e	o
WM擬音語	25	7	11	2	10
サ擬音語	11	5	5	2	3
合計	36	12	16	4	13
WM擬態語	7	2	6	2	9
サ擬態語			3		
合計	7	2	9	2	9

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

(4)

表4:末尾拍「ツ」,「ン」の頻度

	語の末尾	「WM」	「サ」	合計	「WM」	「サ」	合計	音と態 の合計
		擬音語	擬音語		擬態語	擬態語		
1モーラ	+／ツ／	8	1	9	6	1	7	16
	+／ン／	4	1	5	1	1	2	7
合計				14			9	23
2モーラ	+／ツ／	10	3	13	4		4	17
	+／ン／	6	5	11			1	12
合計				24			5	29
反復	+／ン／	3	5	8	3	1	4	11

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」

表5:語頭の文字(英語)

	a	b	c	d	e	f	g	h	j	k	m	n	o	p	r	s	t	v	w	z
WM音	4	9	7	1		5	2	3		1	1	1		7	5	14	6	1	2	
サ音	1	2	4		1		1						1	3	2	5	5		2	2
合計	5	11	11	1	1	5	3	3		1	1	1	1	10	7	19	11	1	4	2
WM態				1					1						1	3	1		3	
サ態	1																			
合計	1			1					1						1	3	1		3	
音と態 の合計	6	11	11	2	1	5	3	3	1	1	1	1	1	10	8	22	12	1	7	2

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

表6:語頭の連結子音(英語)

	bl	cl	cr	fl	gr	pl	sk (sc)	sw	sl	sp	sm	sn	st	tw	vr
WM音	2	2	3	4	1	2	6	2	1	1	1	1		1	1
サ音		2			1		1						1		
合計	2	4	3	4	2	2	7	2	1	1	1	1	1	1	1
WM態								2							
サ態							1								
合計							1	2							

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

表7:末尾の連結子音(英語)

	ft	lp	mf	mp	ng	nk	nt	rf	rg	rp	rt	st	zt
W M 音	1			6	3	1	1	1	1	1	1	1	1
サ音		1		2	5								
合計	1	1		8	8	1	1	1	1	1	1	1	1
W M 態													
サ態			1										
合計			1										

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

表8:語の音節(英語)

	1音節	2音節	3音節
WM擬音語	67	6	
サ擬音語	20	11	2
合計	87	17	2
WM擬態語	6	2	
サ擬態語	5		
合計	11	2	

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

表6から英語の擬音語の場合、語頭の連結子音は／sk／(／sc／)が一般的であることが分かる。／fl／、／cl／、(4回ずつ)も／cr／(3回)も多かった。擬態語の場合は、資料があまりなかったが、擬音語のように、／sk／(sc)の連結子音が一番多かった。

表7から英語の擬音語では、／ng／と／mp／(8回ずつ)で終わる音の使用頻度が一番高いことが分かる。擬態語では、／mf／を除いて、末尾の連結子音の資料はあまりなかった。

表8から英語では、1音節が一般的であることが分かる。2音節も多いが、1音節ほど多くない。

### 3. 日本語の特徴

集めた資料から、日本語の擬音語・擬態語の特徴が見られる。漫画だけ勉強しても、この資料は漫画だけの擬音語・擬態語ではなく、擬音語・擬態語の特徴を示すかも知れない。

表2を見てみると、前にも述べたように、擬音語には、／g／の頻度は高かった。擬態語にも、／g／の頻度は一番高かった。これは一つの日本語の特徴である。Hamano(1986)によると、語頭子音の／g／は突然の動きを表す。面白いのは、／g／という音声は有声子音である。普通は、日本語で有声子音というのは、重く、大きく、汚い状態や様子を表し、不定的な含みを表す。無声子音の／k／、／s／、／t／、／p／は、反対の事を表し、軽く、小さく、美しい状態や様子を表す(日英擬音・擬態語活用辞典)。擬音語で二番目に多かった子音／b／も有声子音であったが擬態語には、二番と三番目が／p／、／s／と無声子音であった。擬音語にも擬態語にも、／r／は使用されていなかった。それで、／r／を使用していないのは一つの日本語の特徴と言える。

表3を母音に着目して見てみよう。一つの特徴は、／e／という母音はあまり使用されていなかったということである。理由は「母音eを含むものの多くは品のよくない音、状態、行為の描写に使われる。」(日英擬音・擬態語活用辞典)ためかも知れない。もう一つの特徴は、擬音語には、／a／の母音がよく使用されていることである。擬態語で／u／と／o／の頻度が高かった。

表4を見てみると、擬音語・擬態語の成立の特徴がすぐ分かるだろう。一つの特徴は2モーラの語がよく使用されていることである。語の末尾音の欄を見てみると、「ッ」は、よく使用されている。「ッ」という語は、急に起こったり、断固した事を表したりしている(*The Languages of Japan*, 1990)。特に、漫画には、物語が面白くなるために、驚き

事は必要であるので、「ッ」はよく使用されているかも知れない。

語の末尾音の「ン」もよく付いていた。一般的に、「ン」という語は、引き延ばした音やリズムカルな音を表すということである。(The Languages of Japan 1990)。

#### 4. 英語の特徴

表5を見てみると、前にも述べたように、「s」、「b」、「c」、「p」、「t」は多かった。「b」を除いて、これらの子音の全部は無声子音である。これは、一つの資料の特徴である。もう一つの特徴は、語頭の文字として、「a」を除くと、母音がめったに使用されていなかったことである。「l」、「q」、「x」と「y」もあまり使用されていなかった。英語では「q」と「x」は特別な音である。辞典で調べると、あまり入っていないことが見つけられるだろう。「l」、「y」については、あまり使用されていないのは言いにくいからかも知れない。

表6に着目して見てみよう。一番目立つ事は/sk/ (sc)の連結子音である。他の連結子音を比べて、/sk/の子音は本当に多い。/cl/と/fl/もよく使用されている。連結の第二文字目は、よく/l/であった。例えば、/bl/、/cl/、/fl/、/sl/、/pl/であった。面白いのは、連結子音のうち約2分の1が第2文字が/s/で始まっていた。第一文字目の/s/で始まる連結子音を除くと、他の連結子音の第二文字目はだいたい/l/か/r/であった。

表7は末尾の連結子音であった。擬音語には、末尾音の/mp/、/ng/が多かった。/mp/は、英語では何か物が落ちた時に、/ng/は、二つの物がぶつかる時の表現に使われる音である。擬態語の場合は、末尾の連結子音はあまりなかった。これは一つの英語の特徴と言える。

もう一つの特徴は表8で見つけることができる。英語は、普通、1音節の語を多く使っている。理由は、効果を表すために、短い語の方がいいからだろう。

#### 5. おわりに

資料から日本語と英語のいろいろな特徴が見られた。日本語と英語は異なった言語だから、比較が難しい。しかし、似ているところがある。例えば、日本語にも、英語にも、擬音語は擬態語より多く使用されていた。更に、末尾音には、日本語の場合は、/ン/がよく使用されていて、英語は、似ている/ng/がよく使用されていた。

一方、違うところもあった。多くの日本語の単語は有声子音の/g/の音で始まったが、英語の多くは、無声子音の/sk/ (sc)の音で始まったことである。もう一つの特徴は、日本

語に比べて、英語は連結子音、例えば／sk／などがよく使用されている。

英語に、非常に目立った事は、1音節の使用頻度であった。日本語には、2モーラのグループが一番多かったが英語の頻度ほど、目立った事ではなかった。

表9: 日本語と英語の特徴

日本語			英語		
種類	多い	少ない	種類	多い	少ない
音・態	擬音語	擬態語	音・態	擬音語	擬態語
子音	／g／	／r／	語頭の連結子音	／sk／,／cl／, ／fl／	
母音	／a／,／u／, ／o／	／e／	語頭の文字	音「b」「c」「p」「t」 態「s」,「w」	
末尾音	／ッ／,／ン／		末尾音	／mp／,／ng／	
モーラ	2	3,4	音節	1	3

※WM=[What's Michael], サ=「サザエさん」、音=擬音語、態=擬態語

日本の漫画は多くの日本人に読まれているので、日本人の生活に影響を与えている。それに、漫画の「言語」も日本人に影響を与えている。他の国と比べたら、日本の漫画事業は一番広いから、漫画の大切さを忘れてはいけない。それで、資料に出てきた特徴は日常会話にも出てくるだろう。

英語では、通常擬音語・擬態語があまり使われていないが、日常、日本語ではよく使われている。それで、擬音語・擬態語は日本語に特に大切である。

英語を学ぶ人にとっては、擬音語・擬態語をあまり勉強しなくても、英語が分かるだろう。しかし、私は、日本語を習っているので、擬音語と擬態語も習わなければならない。というのは、テレビの広告、本、日常会話によく出てくるからである。擬音語と擬態語の勉強から、特に日本語には、言語のいろいろな事がわかる。



参考文献

HAMANO, SHOKO SAITO (1986), *The Sound-Symbolic System of Japanese*, University Microfilms International.

長谷川町子 (1997)『サザエさん』講談社インターナショナル株式会社

HILL, ARCHIBALD. A (1958) *Introduction to Linguistic Structures*, Harcourt, Brace and Company, Inc.

JORDEN, ELEANOR. H (1982)、「擬声語・擬態語と英語」『日英語比較講座』大修館書店。

小林まこと (1994)『*What's Michael?*』株式会社講談社

近藤いねこ他 (1993)『小学館プログレッシブ和英中辞典』、小学館。

尾野秀編 (1984)『日英擬音・擬態語活用辞典』北星堂書店

SCHODT, FREDERIK. L (1983) *The World of Japanese Comics*, Kodansha International Ltd.

SHIBATANI, MASAYOSHI (1990), *The Languages of Japan*, Cambridge University Press.